

科 目		必・選	担 当 教 員	学年・学科			単位数	授 業 形 態					
地域と文化 (ヨーロッパ) Region & Culture IV (Europe)		選択	吉田芳弘	5 年生 物質工学科			1	半期 週 2 時間					
授業概要		不調和なるものの調和」と形容されるヨーロッパ地域の文化的特色を、いくつかの項目に分けて学習する。各項目においては、該当する問題を扱った文学や芸術にも言及すると共に、現代の日本に住む私たちとの係わりも考えることとする。											
到達目標		国際的視野を持った技術者の育成を目指し、宗教や多民族社会など異文化理解を深める。(A) 「ヨーロッパ」なる地域の文化的特質の概要を知る。(A)											
評価方法		定期試験は、中間試験を行わず期末試験のみとする。 1 回の定期試験 (6 0 %) および提出物 (4 0 %) で評価する。											
教科書等		教科書は使用せず、毎回の授業内容をまとめたプリントを、各回の授業で配布する。各自でバインダー等に綴じて保管しておくこと。											
内 容								学習・教育目標					
第 1 週	地理的ヨーロッパ							A					
第 2 週	ヨーロッパの歴史概観							A					
第 3 週	「EU (欧州連合)」という思想と現実							A					
第 4 週	EU思想の背景 ヨーロッパの人間の戦争と虚無の経験							A					
第 5 週	ヨーロッパ人の住む世界を構成するもの (1)	神・世界・人間						A					
第 6 週	ヨーロッパ人の住む世界を構成するもの (2)	時間と空間						A					
第 7 週	ヨーロッパ人の住む世界を構成するもの (3)	法						A					
第 8 週	「ヨーロッパ的人間」像 問いかけ行為する人間							A					
第 9 週	ビデオ鑑賞 (前編)							A					
第 1 0 週	ビデオ鑑賞 (後編)							A					
第 1 1 週	ヨーロッパの源 (1)	古代ギリシャとローマの文化						A					
第 1 2 週	ヨーロッパの源 (2)	ユダヤ・キリスト教						A					
第 1 3 週	ヨーロッパの源 (3)	古代ゲルマンの世界						A					
第 1 4 週	ヨーロッパの源 (4)	異界と他者						A					
第 1 5 週	「不調和なるものの調和」 ヨーロッパの宿命と近・現代ヨーロッパ							A					
第 1 6 週													
第 1 7 週													
第 1 8 週													
第 1 9 週													
第 2 0 週													
第 2 1 週													
第 2 2 週													
第 2 3 週													
第 2 4 週													
第 2 5 週													
第 2 6 週													
第 2 7 週													
第 2 8 週													
第 2 9 週													
第 3 0 週													
(特記事項)			JABEE との関連										
			JABEE	a	b	c	d1	d2a)d)	d2b)c)	e	f	g	h
			本校の学習・教育目標	A	A	C	C	C	B	B	D	C	B

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。(【例】年4回定期試験を実施した場合の各定期試験の評価配分は、特に記載の無いものは、25%ずつになります。)

「地域と文化（ヨーロッパ）」ガイダンス

君たちは、ヨーロッパが何故「ヨーロッパ」と呼ばれるのかを知っていますか。あるいは何故この地域の国々が「EU」（欧州連合）という形で、個々の国でありながら一つにまとまろうとするのでしょうか。この授業では、しばしば「不調和なるものの調和」と形容されるヨーロッパ地域の文化的特色を、幾つかの項目に分けてお話しします。各項目では、該当する問題を扱った文学や芸術にもできるだけ言及すると共に、現代の日本に住む私達とのかかわりも、あわせて考えていきたいと思います。

各週の学習内容

第1週～第2週	ヨーロッパの地理的特質と歴史を概観する。
第3週～第4週	現在進められている「EU（欧州連合）」の試みを概観し、その背景にある戦争の歴史と、破壊殺戮が生み出した虚無と絶望の深さに目を向ける。
第5週～第8週	ヨーロッパを「神・世界（時間と空間）・人間」という観点から概観するとともに、現在の私たちの日本の姿との比較も行なう。
第9週～第10週	ビデオ『カスパー・ハウザーの謎』（予定）を鑑賞する。
第11週～第15週	授業前半（第3週～第8週）で見たヨーロッパの特質を、そのいくつかの根源にたどり概観し、「不調和なるものの調和」としてしかありようのないヨーロッパの宿命を確認する。

尚、教科書を使用しない講義形態の授業であるので、言わずもがなのことではあるが、授業を真面目に聴講し、不明な点は担当者に質問し参考文献にあたる等するとともに、配布したプリントを基に書き込む等してノートをまとめ、授業内容の整理を心がけること。

また授業に関連しての「課題」を数件提出してもらう。「評価方法」にあるように、評価において「課題」の提出は大きなウエイトを占めているので、提出漏れの無いよう注意すること。